911.3
オ

911.3
オ

千石の
清左衛門
集

月日八百代の色宮ゝ
ゝ事も又旅人也永のゝ生涯
をうゝるのゝ
ゝて老ゝ
ゝ拍ゝ
ゝて旅を栖ゝ
古人も多く旅ゝ死ゝ
ゝいゝの
ゝ
ゝ
海濱ゝ

[illegible]の古事をたづねて
[illegible]
白川の関こえたる神のおもし
[illegible]
[illegible]
[illegible]
引の[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

別墅に帰るとて

[illegible]
面八白を[illegible]
[illegible]の七日明の[illegible]月八
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

乗て送る千しゆと云所にて舩
をあかれハ前途三千里のおもひ
胸にふさかりて幻のちまたに
離別の泪をそゝく
行春や鳥啼魚の目ハ泪
是を矢立の初として行道なを
すゝます人々ハ途中に立ならひ
て後かけのみゆるまてハと見送なるへし

ことし元禄二とせにや奥羽長途の
行脚只かりそめに思ひたちて
呉天に白髪の恨を重ぬといへ共
耳にふれていまためにみぬさかひ
若生て帰らはと定なき頼の末
をかけ其日漸早加と云宿に
たとり着にけり痩骨の肩に
かゝれる物先くるしむたゝ身すから

よと出ぬ候と弟子一気ハ穀の
跡をゆき雨見る筆のまゝに
絶るハまゐりて帰るとなりしハ
さすれ共捨りて猶その姫を
うけたまはれ
宝の八葉を備ゆ同行雲気白也
神ハ木の花さくや姫の神として
富士一躰也無戸室にて焼かよ

ちりひのみ中より火ゞ出見のみこと
生れ給ひし也宝の八葉と申スハ
様々と読めり仏もとの浄也将
この上縁として宝殿を建てり縁起
の旨世人信ずる事も侍し
此日月光山の様を漏らすまじの
云ひける事ハ叔父と師也たちまち
富士登を旨とする人々ハ

ト給ひし一夜の草の枕もおちこ
休ミ給へといふ。いかなる仏の濁世塵土に
示現して、かゝる桑門の乞食順礼
ごときの人をたすけ給ふにやと
あるじのなす事に心をとゞめて
みるに、唯無智無分別にして正
直偏固の者也。剛毅木訥の仁に
近きたぐひ、気稟の清質尤

尊ぶべし。
卯月朔日御山に詣拝す。往昔
此御山を二荒山と書しを空海
大師開基の時日光と改給ふ。千
歳未来をさとり給ふにや、今此
御光一天にかゝやきて恩沢八荒
にあふれ、四民安堵の栖穏なり。
猶憚多くて筆をさし置ぬ。

いつれをとしま葉成給ひのの交
是賢とハ、寂をもつてゆへさと
おし
判捨て是賢より花也　云良
雲良ハ、山人合成しまして出あつきれ
芭蕉の下葉をましみとるよしてあつ
薪水葉常ときすくるのにまれ
松しよ家源の眺共しまんすと

既ニ且ハ羈旅の雛をふまへ
旅立暁也夢と判て是保存
きよし無五を限て宗悟とす
仍て是賢よりの旨をしるの二
字力ばかりて云ん
此條下よき也付て満をる圖
頂より飛流ししてあいくよ器の
路氷潭より岩窟より身をと

ひろう入て滝の裏をわたれば
うみの龍とゝ仕る也
時に滝くゞる弥平夏の初
此頃の事なれとも所の人あれ
共もちかぬ所なれとも
ゆゑとすてゝ一村をこんなと
りよ兩隣日ごろ農夫の
よ一表をもつて明れば弥平
をもつてこゝへ弥四のうちか
ゝよりおのとよりをれば弥吉
といふものをもつて
いけすにもれも此弥八郎横
よりうれてゝるく表人のを
ふと出をうんあ平ゝ行れば出る
のゝまち所くゝをとゝ
ゝ行ゝらいさき者あるもの

仕まつりてうらう行ハ小姫と
ゑとかゝれたるゆうれいの
やうにうらゑ
うはれとハ八重桜のゑ
姫て人目よもれハあるひを
つりゝゝ
黒羽の館代伊坊ゆうの
ゆうゝゝ

田舎侍てゝ世井桃家と
ゝの朝夕ゝゝ有のゝ
を使ひて家屋のすゝ
ゝ
よ道遠て大ゝ
形貌の簾原をあて
古墳をゝゝ八幡宮ゝ
乎市扇の的を射ゝ

氏神正八まんとちかひしも
此神社にて侍ときけハ感應殊
しきりに覚えらる暮れハ桃翠
宅に帰る
修験光明寺と云有そこにまねかれて
行者堂を拝す
夏山に足駄を拝む首途哉
当国雲巌寺のおくに仏頂和尚

山居跡あり
竪横の五尺にたらぬ草の庵
むすぶもくやし雨なかりせハ
と松の炭して岩に書付侍りと
いつぞや聞え給ふ其跡みんと雲巌
寺に杖を曳ハ人々すゝんて共に
いさなひ若き人おほく道のほと
打さはきておほえす彼梺に到る

[illegible]
[illegible]
月の[illegible]十[illegible]
橋[illegible]
さて[illegible]
[illegible]
座[illegible]
[illegible]

木啄も[illegible]
とも[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

石の毒をいまさらひす蜂
蝶のもとにまつのこのもとを
うきものとおもふにもうきの
柳八世柳の宮人あつて田の畔
人ぬくに此不の邪宇戸郭某の
此柳みとりをもとめくるのうち
はしめをいつくのもとを忘
じをくるに此柳のうちうち

宣旨をうけ
田一枝拔て立去る柳の風
少許ハうつる日うすくもうつる月
の間よりうつして枝をあいて
都一を後忘しもの心中を
此間ハ之間の一ツて風流の人
心をうむ秋風を吹こ初
石をもを仕ものして者の移枝

はれ也卯の花の白妙に茨の
花の咲そひて雪にもこゆる心
地ぞする古人冠を正し衣裳を
改し事など清輔の筆にもとゞ
め置れしとぞ

卯の花をかざしに関の晴着かな　曽良

とかくして越行まゝにあぶくま
川を渡る左に会津根高く右
に岩城相馬三春の庄常陸下
野の地をさかひて山つらなる
かげ沼と云所を行に今日は空曇て物
影うつらずすか川の駅に等窮
といふものを尋て四五日とゞめらる
先白河の関いかにこえつるやと
問長途のくるしみ身心つかれ且
風景に魂うばはれ懐旧に腸

[illegible]

風流の初やおの田植うた

[illegible]

[illegible]

此哥の傳は大きるる雲のまた

とさめうし世といふ傳を據ひ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

西方浄土[illegible]

[illegible]

世の人乃人[illegible]や行の雲

[illegible]

の宿を離れてあるを路り

色[illegible]

[illegible]

かつミとハ云そと人々に尋侍れ
とも更知人なし沼を尋人にとひ
かつミかつミと尋ありきて日ハ
山の端ニかゝりぬ二本松より右ニ
切て黒塚の岩屋一見し
福嶋に宿るあくれハしのふもち摺
の石を尋て忍ふの里に行
遥山陰の小里ニ石半土ニ
埋て有里の童部の来りて教ける
昔ハ此山の上ニ侍しを往来の人の
麦草をあらして此石を試侍を
にくみて此谷につき落せハ石の
面下さまにふしたりと云さもある
へき事にや
　早苗とる手もとや昔しのふ摺
月の輪の渡しを越て瀬の上と

笠嶋の郡に入是ハ藤中将実方
の塚ハいつのほとならんと人にとへハ
是より遥右に見ゆる山際
の里をみのわ笠嶋と云道祖神
の社かたミの薄今にありと教
此比の五月雨に道いとあしく
身つかれ侍れハよそなから眺やりて
過るに簑輪笠嶋も五月雨
の折にふれたりと

笠嶋ハいつこさ月のぬかり道

岩沼に宿る
武隈の松にこそめ覚る心地ハすれ
根ハ土際より二木にわかれて昔
の姿うしなハすとしらる先能因
法師思ひ出往昔むつのかミにて
下りし人此木を伐て名取川

のれくぬまちと
[illegible]いつさ月のめり
[illegible]
[illegible]
[illegible]の[illegible]ぬ[illegible]ハ[illegible]
[illegible]ハ[illegible]ら二[illegible]れて[illegible]
の[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

あひて秋のけしきおもひやらるゝ
玉田よこ野つゝしか岡はあせひ
咲ころ也日影ももらぬ松の林に
入て爰を木の下といふとそ昔も
かく露ふかけれはこそみさふらひ
みかさとはよみたれ薬師堂天神
の御社なと拝て其日はくれぬ猶
松嶋塩かまの所々畫にかきて送

且紺の染緒つけたる草鞋二
足餞すされはこそ風流のしれも
のこゝにいたりて其実を顕す

あやめ艸足に結ん草鞋の緒

かの畫圖にまかせてたとりゆけは
おくの細道の山際に十符の
菅有今も年々十符の菅菰
を調て國守に献すといへり

壺碑　市川村多賀城ニ有

この石ハ高サ六尺餘横ニ八尺計
苔を掃て文字を写也四維国
界之数里をしるす此城神亀元
年按察使鎮守府将軍大野朝臣
東人之所造也天平宝字六年参
議東海東山節度使同将軍
恵美朝臣獲修造而十二月朔日

と有聖武皇帝の御時ニ高野の
むすめ[illegible]の枕ものく
後代よりいつもの山崩川落て
けるとも石ハ動て[illegible]
ハ者て[illegible]
代[illegible]
のを[illegible]て[illegible]
歳の記念今眼おゝ[illegible]人の心

を開まり給の一位なる命の
はしに羇旅の労をおもはれて
問し給ふる也
それより野田の山伏の子なる
赤乃松と云ハ[illegible]を造て赤松と云
松のあひ〳〵皆墓〳〵にして[illegible]
うゝ[illegible]松をつゝみ[illegible]の赤松
ハ[illegible]ことゝ也[illegible]

[illegible]の風に八おのゝ[illegible]
面のゝ[illegible]弥れて夕月夜[illegible]
[illegible]
きつゝて[illegible]力[illegible]
てゝ[illegible]
いゝ[illegible]也去程月盲[illegible]乃
[illegible]
[illegible]

ましあまりにひなびたる調子うち上
て枕ちかうかしましけれとさ
すかに辺土の遺風忘れさるものか
ら殊勝に覚らる早朝塩かま
の明神に詣國守再興せられ
て宮柱ふとしく彩椽きらひや
かに石の階九仞に重り朝日あ
けの玉かきをかゝやかすかゝる道の
果塵土の境まて神霊あらたに
ましますこそ吾國の風俗なれと
いと貴けれ神前に古き宝燈有
かねの戸ひらの面に文治三年和泉
三郎寄進とあり五百年来の俤
今目の前にうかひてそゞろに
珍し渠ハ勇義忠孝の士也佳名
今にいたりてしたはすといふ事なし

[illegible]人の道を[illegible]
[illegible]
[illegible]
其間二里除[illegible]
[illegible]
[illegible]
一の[illegible]
東南[illegible]
[illegible]江の湖を[illegible]

[illegible]て歌[illegible]
[illegible]陸奥[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]松の[illegible]
[illegible]風吹[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]人の顔を[illegible]

神のむかし大とせのあらわさ
まや造化の天工いつ悲の人の筆
をあらるし詞を畫さて
雄浦の張八地てまて海をかな
浦也雲五彌師のふ空の位
吟行石ちるる將松の木陰
世をそなる人も稼くらを作て
長生松をちをあらるる事

巻同じ作なるいるの人をん
をあれまるをえるくをのの
かをを月海をうつりて昼のあ
又あををむ江上をゆりて宿を
あれ八宗をひるを二階を作て
風雲の中を旅をををを
あやまををあるを八ををを
松浦や霧をををれ

[illegible]
石の奏と以て漆と[illegible]
と[illegible]て[illegible]金花と海と
見わし數百の迴廊入[illegible]て
ひ人衆地を[illegible]て竈の
炊[illegible]
[illegible]
[illegible]

大門の江八一里ばかりなり東街
道は八田邦子廟にて宣鶴山の
形を為す其麓に館あり然
小山川南部より流れて大河也
衣川は和泉守城をかまへて居館
の下にして大河に義入康衡ホウ
記に衣川を隔て南部口
を防ぎ要害とかまへ
備し義臣ありて此城に
こもり功名一時の義とるに足
也て此河より城春草
もみわと笠井なりて叫ぶ
てて間を隔て行ける
哀なるかな兵どもの夢の跡
邦の忘れ無房みかの角もらる
墨て耳をもて聖人二世間長

寺經堂ハ三將の像とのこし
光堂ハ三代の棺を納めたる
佛を安置す　七宝荘厳
殊の扉風ハ金の板にて
雪を拭て就頼慶元虚の最
と成ることを四面彩色して
を慶て風雨を防ぎ對面
の行合ハ

五月雨の降のこりてや光堂
南戸通るこゑやうして見るもの
里人伝ふ小三條三位の小像を
をてるるこの伝ふ扉前の開
こうして出羽の山を望む
七路能人像ハ不動
開ハ
関を
大

日成いるるに乗人のあるを
うけて会を出む三位殿なれ
てしらるる中に遠なす
番頭なる尿を拾を
ひらるのをもち出用のむ
大らを陪てたるをうるらさ
れたををの人を拾て給へ
きをしをををて人を
拾給ひ小宛意のる者及根拾
をををを拾の杖を携て急
先ををり給ひ小あり
をををへき見られと
辛きをいををて拾ついて
りたるのを生きうす高山
森をして一鳥をををの
下園をあるあるをを

雪ゆきはしつもりぬれば
籠の中踏みくしをりて
よ蹴て肌しつめるを洗ふ
して家主の庄屋かけの
事内をもとめるやう出ま
ず不用のものを惜みもの
まうやて仕合をもとめて
もうしなをまてを物をも
ひ也
屋敷澤して情風をを者をを
ぬをハ家ものをれどを志いや
をを都もあをもしてを
をを旅の慣をを知れハ日比
ををを遠かいをををを
ををを行を
浮をを我出をを行を也

雪降りつもる山路にて
篠の中踏みくゝ山を越すより見
よ藤て肌にしめるを洗ふ
して家土の庭にかけ
蕨門をもの出
水不用のものを
まして仕合をもとめて
もしかなまして
乃也
尾張濃にて清風と者とを
ゆるを八幡のもれども志いや
ゝ都しめるまして
まゝ旅の情を知れ八月比
ゝ也遠のいとゝ
ゝ行
清水を我出して行也

[illegible]川のほとりに石田[illegible]
日和を行[illegible]
[illegible]れて[illegible]
[illegible]
[illegible]

仏人堂岸上に建て立ちそ
きつてゑあやう
六月夏をかけて早十六日
六月三日羽黒山ふもとの圓司左吉
と者を召て別当代命ぜ
国和上御ゆ南谷のふ法
会して懺悔の法こさやう
あらしとそ

四日本坊を発て詠歌興行
[illegible]雪をふみ南谷
五の坊坊より清蓮山開闢能除
大師いつの代の人とも下を
そ延喜式に羽黒山の神
社と有書寫黒の字を星山と
[illegible]や羽黒山を中世
て羽黒とも出羽とも

[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
谷の[illegible]鍛冶小路とゝなゝ[illegible]
[illegible]治霊水を撰て[illegible]潔斎
して釵を打て月日と銘を切
て世に貴きゝ彼龍泉に釼
を倅とゝ千将莫耶のむしを

そ[illegible]道に[illegible]の[illegible]
水をそゝれたゝ[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

暑き日を海にいれて[illegible]川
江山陸の風光[illegible]
今京師[illegible]方丈と黄河の深
き東北の海[illegible]を紙幅に作し
いさゝかこゝろみて其深十里[illegible]
やかなる比沒風を吹上
兩腰脇[illegible]海の山[illegible]
関中に莫化して雨[illegible]奇せと
[illegible]雨[illegible]の晴色人物[illegible]
の[illegible]腰をいまして海の晴
を行[illegible]天[illegible]霧[illegible]
やうに出[illegible]京師[illegible]
[illegible]関[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

の行人とすの江上に所在
りの神功石宮の淳墓とて
と干満珠ありとて此ところも
あり市いとゆすいるる
市上や此ものとよりて
為を捨て風雨の時
あて南とる海天をけて
其陸地して江のあり西ハむやく
の開路をもり東に流を築て
此田をもて海北とて
て流水入ると沙うとて
て江の縦横一里ばかり行
ていて又異なり行修ハ第の
如く象潟ハ高むとて
ものを小しみとて地形
をやとて仰ぎ

象潟や雨に西施が合歓の花

汐干潟や鮫ひ[illegible]

みのれ

象潟や料理何くふ神祭

象潟の雨や西施が合歓の花

この浦の苫屋ふりよ[illegible]

岩上に雎鳩の営[illegible]

汐こゆ[illegible]やみさを[illegible]

[illegible]田の金[illegible]

雲[illegible]

[illegible]

加賀の府[illegible]百世[illegible]

[illegible]嵐の関[illegible]

の地[illegible]

[illegible]の

[illegible]の関[illegible]九日

暑[illegible]の[illegible]神[illegible]

[illegible]月や六月[illegible]の[illegible]

荒海や佐渡に横たふ天の川

今日は新しき[illegible]

[illegible]国一の[illegible]

[illegible]れ[illegible]

[illegible]一回[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]川をわたりて那古と云所に
生擒義の者共に奉[illegible]
初めの[illegible]
人[illegible]れと[illegible]より五里いう
[illegible]
[illegible]
の一[illegible]
いたをけれてうの国に入

上せの者
[illegible]
手のあるをうらう谷をこえて
今は八七月中の五日[illegible]
大坂[illegible]高人[illegible]
をこれ[illegible]
一[illegible]
[illegible]
上[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

長兄遠藤を住す

塚と称す永仁年間

[illegible]

秋葉[illegible]

途中唫

[illegible]

[illegible]

[illegible]

此石太田の神社清土[illegible]

軍鶴の切り[illegible]

屬す[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

名山乃石ち京ヶ所の図

文をあられ行ふ極楽の浄土
う仏をしたまひしまのあるも
縁起をみるに
むかしやる中の下ろうす
山中の温泉をもとめ伝
う嶽行をみるに
先の法隆観音堂ありて
山の法皇三十三所の彫れ
ものを
大師大師
の像を安置をもいて那谷
と名付しや那谷仏の
二字をもうら行ふ寺の
石をさくして古松植をくく
堂塔をの小堂宮の上
きをうをうをの土地
石山寺石山寺秋の月

[illegible]泉と称す其功[illegible]
[illegible]
[illegible]中やうの[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]
[illegible]
今日より[illegible]
大聖[illegible]の[illegible]金昌寺[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]
[illegible]
五十[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]
[illegible]
[illegible]

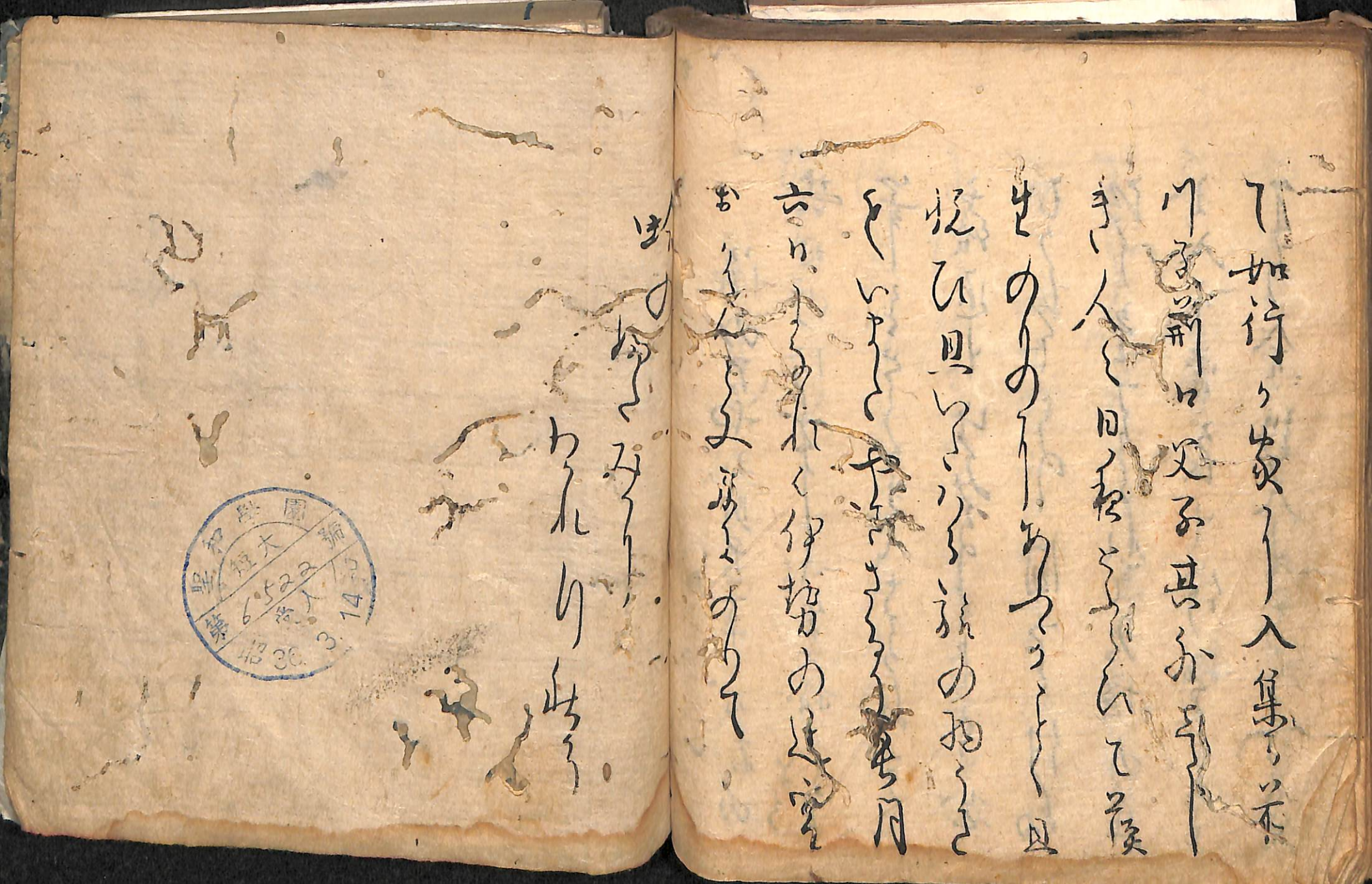
往昔和歌三世の上人を経
[illegible]
を以て土石を[illegible]泥洟を
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

月[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]



昭和女子大学図書館
第6533号
昭38.3.14